



鼻高公民館だより

発行：高崎市鼻高公民館 高崎市鼻高町 33-5 電話・FAX 322-9100
まなびネットたかさき HP <http://takasaki.manabi365.net/>



《事業報告》

＝料理教室＝ 10月3日(金)

ベーコンと枝豆のリゾット&
トマトのマリネを作る

スパゲッティが馴染み深いイタリア料理ですが、今回はリゾットに挑戦。家ではあまり作らない人も多いかもしれませんが、講師の指導のもと、美味しいリゾットが出来上がりました。



活き活きセミナー 第4回

＝いきいき健康体操＝ 10月10日(金)



活き活きセミナーの4回目は健康体操。講師の説明を聞き、頭の体操と指先の運動を同

時に行う。簡単のようでなかなか難しい。途中でリズムが狂い、笑いでごまかす楽しいひと時でした。

《図書室だより》

新しい本が入りました。ご利用ください。

本の題名	著者名
市長たじたじ日記	清水聖士
大人のひとりご飯100文字レシピ	川津幸子
天才魔術師を弟に持つと人生はこうなる 1	江崎乙鳥
天才魔術師を弟に持つと人生はこうなる 2	江崎乙鳥
たわけ本屋一代記 蔦屋重三郎	増田晶文
マスカレード・ライフ	東野圭吾
蛍たちの祈り	町田そのこ
小泉セツとハーンの物語	三成清香
何のために生まれてきたの？	やなせたかし
パズルと天気	伊坂幸太郎
サイレントシンガー	小川洋子
一橋桐子(79)の相談日記	原田ひ香
山影の町から	笠間直穂子
月とコーヒー	吉田篤弘
近畿地方のある場所について	背 筋
バンクハザードにようこそ	中山七理

【本の貸出し】 毎週水曜日・金曜日
(公民館休館日の時は図書室も休みです)

【時間】 午後1時30分～4時

【貸出し冊数】 一度に貸出す本は3冊まで

【貸出し期間】 2週間



芋煮を囲み、談笑する参加者



自然歩道は途中、一汗かく登り坂が続きます

鼻高小学校区体育振興会主催
鼻高地区地域づくり活動協議会・鼻高公民館・鼻高町をきれいにする会共催
鼻高地区歩け歩け大会 & 芋煮会
10月19日(日)
日頃の運動不足を解消するため、ウォーキング大会が実施されました。少林山脇の高崎自然歩道を通り、『鼻高展望花の丘』まで歩きました。花の丘では〇×クイズに挑戦し、芋煮を皆で囲み、それぞれが親睦を深めました。



鼻高の四季

Ⅱ 写真で綴る鼻高の宝 ④〇

八幡の庄 八幡宮と大聖護国寺 Ⅱ

烏川と碓氷川の河岸段丘一帯に平安時代、八幡の庄という荘園が広がっていました。その一角の小高い丘に「うぶすなの杜 八幡の・・・」と八幡小の校歌に詠われた鎮守の森が在りました。かつては神仏混合だったので、八幡様の在る杜の奥に地主稻荷社、東に大聖護国寺、そして西側に今は板鼻に移転した長伝寺が在りました。この東に位置する大聖護国寺も長い伝統を持つ古刹であり、鼻高にも多く関係者が居る寺院なので、今回その歴史を皆さんと深読みしてみましよう。

大聖護国寺

八幡の鎮守の森に八幡様と並んで東に寺院がありま
す。正式名は「神通山遍照
王院大聖護国寺」といいま
す。健保4年（1261）高
野山清浄心院より「定弘和
上」を招き八幡の地に別当
「大聖護国寺」として開山
された寺院です。八幡宮よ

り約200年後の建立となります。

最近、開山800年の記念として平成28年から客殿や書院、阿弥陀堂や桂昌庭という枯山水庭園等を整備し、荘厳な佇まいの立派な寺院となっています。



八幡宮の東に隣接する大聖護国寺

徳川5代将軍綱吉公と大聖護国寺

大聖護国寺は、江戸幕府第5代将軍徳川綱吉の母である「桂昌院」と縁が深く、寺院に多くの伽藍や宝物・仏像などが寄進されています。

徳川幕府第3代将軍家光

の側室であった桂昌院が後の将軍となる綱吉を身籠った時に、安産祈願を行ったのが、ここ大聖護国寺の24代住職の亮賢（りょうけん）僧正だったそうです。その後、無事に子どもが生まれ、やがて徳川第5代将軍になったことから、桂昌院は亮賢僧正を篤く信頼し、大聖護国寺に多くの伽藍などを寄付し、加護してくれたとのことです。また、綱吉が5代将軍に就くや否や、桂昌院は江戸（東京）の音羽に荘厳な護国寺を建立し、上州八幡の地よりこの亮賢僧正を招き、護国寺の初代住職としたのでした。

玉の輿に乗る
桂昌院には「玉の輿」の語源になったという言い伝えがあります。一説によると、お玉と呼ばれていた一般の娘が徳川第3代将軍の側室となり、産んだその子どもがやがて時の将軍となって権勢を振るったという

ことから生まれた言葉だという話です。（諸説あります）

神仏混合

明治時代以前は、神仏混合の時代であり、寺社の境内には混在して伽藍が配置されていました。

現在、八幡の八幡宮に行くと見ると、神社なのに正面の左に鐘楼堂があり、右に阿弥陀堂（現在は天満宮）などがあり、不思議に感じられるかもしれませんが、以前は当たり前前の風景だったということです。



八幡の八幡宮全景

（次号に続く）